



- [dʒi:]
1. ジー (英語アルファベットの第7字)
 2. ト音 (ドレミ歌唱のソ音)
 3. (連続したものの7番目)

ABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナー

Gamine/ガミンヌ

おてんば娘

美人でゴージャス、おまけに完璧なナイスバディ。そんなスーパーモデルの旬も、そろそろ期限切れ。時代の顔ともなったスーパー・モデルの代表格リンダ・エバンジェリスタは、今じゃ全盛期の半分に仕事が減って焦ることしきりとか。その点、有名マジシャンのデヴィッド・コバフィールドと婚約し世間をアツといわせたクローディア・シファアや、ミュージシャンに転向し見事な歌声を披露したナオミ・キャンベル、リチャード・ギアとの離婚騒動や女優宣言など常に話題に事欠かないシンディ・クロフォードなどは、相も変わらず時のひと。パーフェクト美女のサバイバル戦争もなかなかキビシイものなのだ。そして今、完璧すぎた美に飽きた人々が次に求めたのがこれ、ガミンヌタイプ。本来はフランス語で「はねっかえり娘」。ファッション業界では、70年代風のスタイルをした華奢で小柄なモデルを指す。顔は美人より個性的、背もやや低め、胸も大き過ぎずスレンダー。ルーシー・ド・ラ・ファレズなどがその路線。要するに、スーパーモデルと**正反対**なタイプが、これからのインなんである。

Generation X/ジェネレーションX

現代の若者の総称であり、X世代とも呼ばれるのがジェネレーションX。もとは1991年に出版されたカナダ人作家ダグラス・クーブランドの小説の題名で、登場人物が90年代前半における20代の若者であったことから、この世代に貼るレッテルとしてメディアが流行らせた造語にすぎない。Newsweek誌によると、現在40代のベビーブーマー世代にとって、今の20代は「無気力、無関心、そして限りなく**だらしない**」以外の何者でもないとか。もちろん、X世代も黙っていない。アメリカの20代の声を集めた『X世代読本』では「ピースに革命、そんな**大ボラ**はもうたくさん。今に俺たちの時代が来るさ」と、飽食時代の落とし子らしく、あくまで強気の姿勢である。どちらの言い分も当たっているようなないような。ちなみに、ジェネレーションXと聞いてビリー・アイルドを一番に思い浮かべた君は……世代的には、ジェネレーションXより上とみた。

Girlye/ガリーー

(裸に近い) 女性を売り物にした

オンナを最大の武器にしたもの。女性の裸を売りにした雑誌などをgirlye magazineという。そういえばマドンナの93年ワールドツアーのタイトルが『Girlye Show』。あのツアーを最後に彼女は『脱セックス・シンボル』宣言を遂げ、シリアスなニューアルバムを発表。その後はニュースステーションで**小宮悦子**をいたぶるわ、プレイボーイ誌のインタビューで「有名人の末路として、私が孤独に**自殺**するのを皆が心待ちにしているんですけど、そうはいかないわ!」と息巻くわで、どんどんgirlyeからかけ離れてしまわれるのであった。男性ファンよ、泣け。

God bless you/ゴッド・ブレス・ユー

よかったじゃん

blessは「(神が) 祝福する」という意味。いいことがあって喜んでいる人には、この言葉を贈って自分も喜んであげるのがよろし。また、誰かがくしゃみをした時なんかは、やさしく**Bless you** (お大事に) と声をかけるのも忘れずに。映画『シングルス』では、ブリジット・フォンダ扮する女のコが「**理想の男性**は、くしゃみをした時、Bless you! って言ってくれるひと」と言っていた。

- ・ I could make up with him yesterday.
(きのう、彼とやっと仲直りできたワ)
- ・ God bless you!
(よかったじゃない!)

Go-getter/ゴー・ゲッター

野心家

go (行って) getter (取ってくるひと) とのことから、「野心に燃える、**モレツ社員**」のこと。どの会社にも一人はいるであろう、システム帳と携帯電話を小脇にかかえ、いつもどこぞを飛びまわってるひと。でもだからといって必ず出世するとは限らないから世の中ままならん。どうせgo-getterするなら要領よくやって、とっととHigh-flier (ハイ・フライヤー) になろう。これ**“出世頭”**ってことだから、こっちのほうがずっとラッキーなのだ。

Great-scotte/グレイト・スコット

なんてこった

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のドクの口癖がこれ。過去や未来でしっちゃんかめっちゃかを繰り返すマーティに振り回されるたびに、great scotte! と叫んでおりました。おやまあ!**なんてこつたい!**の意。

Green channel/グリーン・チャンネル

有料のCS (通信衛星) 放送の名称で、おもに**競馬中継**を中心に放映する局のこと。開局したのは昨年10月であるが、これが予想を裏切って大評判。受信希望者がわんさと殺到し、受信機の製造も全く追いつかない状態だとか。現在では予約を待つ人々の数、約**2万人**。衛星放送でも、WowWowのほうは年々積み重なる赤字に困り果てているというのに。皆さん、ウマはお好きなのだ。

Gulf war syndrome/ガルフ・ウォー・シンドローム

湾岸戦争症候群

1991年、湾岸戦争から帰還したアメリカ兵たちから、現在数多くの**体の不調**が訴えられている。関節痛、胸部痛、知的能力の低下、不眠症、発疹、息ぎれ、疲労など、原因不明の症状に苦しむ元兵士たちがここ最近増加しているらしい。現在調査は続けられているが、これといった理由は**謎**。一説には、化学兵器から体を守るために投与された、何らかの薬に原因があるのではともいわれているとか。

.....Get off my back(case)!/ゲタフ マイ バック!

ほっといてんか!



Seattle.NY.LA.Kyoto

フツウに言うときは**Leave me alone.**がポピュラーだが、マンザイのボケが最後にキメるジャパニーズトラディショナルっぽいセリフはこちら。一方関東のマンザイだとこうなる。**Cut it out!** (いい加減にしろ!) 左手の甲で、相手の胸のあたりを叩きながら言うとグツと感じがするはずだ。ケニー・松村



エスプレッソ・アメリカーノ

〒606 京都市左京区下鴨北山宝ヶ池通上ル西側
Tel.075 (702) 2666